

下野市子ども・子育て会議 議事録

審議会等名 令和3年度第2回下野市子ども・子育て会議
日 時 令和4年3月9日（水） 午前10時から11時20分まで
会 場 下野市役所 3階 304会議室
出席者 菅聖子委員、原田いづみ委員、峯雅士委員、猪瀬七重委員、大塚洋子委員、
小谷光子委員、佐間田香委員、大垣玉枝委員
【欠席委員】早川陽子委員、高山由紀子委員、竹内康弘委員、藤川智子委員、
慶野秀和委員、稲山貴之委員
市側出席者 （事務局）福田健康福祉部長、金田こども福祉課長、
大口こども福祉課課長補佐、増淵こども福祉課課長補佐、
伊澤こども福祉課主幹
公開・非公開の別（ 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 ）
傍聴者 2名
報道機関 なし
議事録（概要）作成年月日 令和4年3月18日

1. 開 会

（事務局、金田課長）

令和3年度第2回下野市子ども・子育て会議を開会します。

本日の会議につきましては、事前に早川委員、高山委員、竹内委員、藤川委員、慶野委員、稲山委員から欠席との連絡を受けており、また、大塚委員につきましては、遅れる旨の連絡を受けており、出席委員数は8名であります。下野市子ども・子育て会議条例第6条第2項に「会議は委員の半数以上の出席がなければ開くことができない」との規定がありますが、14名のうち8名、半数以上が出席されておりますので、本日の会議が成立することをご報告いたします。なお、前回の会議において確認しましたが、当会議につきましては、原則公開となります。今回、会議の傍聴について募ったところ、2名の方から傍聴の申し込みがありましたので、併せてご報告いたします。

それでは、次第に基づき、2番の会長あいさつに移ります。

2. 会長あいさつ

（佐間田会長）おはようございます。本日はお忙しい中、ありがとうございます。また、2月1月から保育の現場、事務局の皆さんもそうかと思いますが、新型コロナウイルスで大変な思いをされているかと思いますが、少し落ち着いてきてよかったなど思っております。このあと説明もあるかと思いますが、前回、薬師寺保育園に関して皆様から大変ご意見をいただき、実は私も現場の人間としていろんな方からご意見をいただいたので、直接、市議会議員の先生にお伺いしたこ

ともありました。そうしたら、特にどこが、という訳ではなく、プレゼンだよ、とおっしゃられたので、そうなのか、と思いながら、この会議、子ども子育て会議ですので、子育てというところでは、確かに素晴らしいと思いながら、子どもの代弁をする場としては、子どもの現場にいる皆さんに、ぜひ子ども目線で、子どもの代弁をできるような、子ども達がこのあとどう育っていくのか、未来を見据えたご意見を、子どもの代弁をする気持ちで皆様にご発言いただけたらと思います。そして前回も申し上げましたが、意見に間違いはございませんので、感じたところを発言いただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 報告

(事務局、金田課長)

次第に基づき、3の報告に移ります。下野市子ども・子育て条例第5条第3項の規定に「会長は、子ども・子育て会議を代表し、会務を総理する。」とあります。以降を佐間田会長の進行でお願いします。

(佐間田会長) 次第に先立ちまして、前回の会議においてご質問がありました「休日保育事業」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局、増淵課長補佐)

前回ご質問がありました「休日保育事業」について、下野市では薬師寺幼稚園で実施しており、実質どれくらいの利用があるのか、ということですが、令和元年度の年間の利用人数は619人です。令和2年度は240人と、新型コロナウイルスの影響で大幅に減少しています。令和3年度においても新型コロナウイルスの影響があり減少している状況ですが、コロナ禍が終息すれば、徐々に令和元年度並みの実績まで回復していくことが予想されます。

2つ目の、休日保育の利用にあたり登録料が必要となるが、その経費はどういうことか。その内容については、休日保育実施園の薬師寺幼稚園の玄関ドアが園児の安全確保のためオートロックとなっており、開錠にはICカードの保護者証が必要となります。そのICカードの費用ということです。

3つ目の、登録料を徴収することが正しいかどうか、については、休日保育の保育料は、子ども子育て新制度の導入とともに施設型給付における加算となり、保育料の保護者負担はありません。薬師寺幼稚園でも保育料の徴収は行っていません。登録料の用途は玄関の開錠に必要なICカードの費用であり、保育料ではなく、実費徴収に当たる部分となります。こちらについては県のこども政策課にも確認し、実費徴収は可能という回答を得ています。

4つ目の、休日保育は未就学児しかあずかれないことになっているが、小学1～2年生の子はあずかってもらえないか、ということですが、国の制度上、休日保育の対象は未就学児となっていること、休日保育の保育士確保が難しく、現制度で小学生をあずかっても利用実績にはならず、施設型給付の

加算も付かないため、自主事業として運営していくことは、運営側としてはなかなか難しいという状況です。

休日でも障がいのあるお子さんをあずかっていただけるサービスはあるか、ということですが、休日保育を実施している施設側の現状としては、先ほどと同様に、保育士確保が非常に難しいということで対応が困難である状況で、難しい状況であります。

以上、休日保育についての報告となります。

(佐間田会長) 委員の皆様、何かご意見などありますか。

それでは、次第に沿って進めます。

(1) 薬師寺保育園の整備状況につきまして、事務局の説明を求めます。

(峯委員) その前に、この件について資料があります。委員として資料を出させてもらいます。

【峯委員より資料配付】

(峯委員) 資料No.1、薬師寺保育園の整備状況について、以前、施設長会議等をやられたと思います。そのときの資料があります。私達、委員ですが詳しく知らないで、ご指導いただきながら、意見というのがあったらしいです。私達もこの資料をいただいた時に、いつもは2週間前くらいに子育て会議の資料が届きます。今回、3月4日の15時36分に、私がこども課のほうに電話しまして、女性の方が出まして、いつになったら資料が来るのですか、と。多分届きますよ、その後に男性の方に代わりまして、お名前はちょっと忘れましたが、今回報告なので、枚数も少ないので、という言い方をされました。会議なのに報告なんだな、報告で全て決まってしまうのかな、ということをおもいました。であれば、以前に、これは別の、同じ資料だと思います、No.1と。資料2と書いてありますけれども、同じ資料です。資料はNo.1で、こちらは資料2ですが、同じ資料だと思ってください。それについて、こういった意見があったというのは知りました。私達にもこういった回答資料を添付しておいてもらえれば、何かしら、物が言えたのではないかな。急にここで、何かと言われましても、日数が少ないものですから、ということもあります。それを踏まえて、提出させてもらいました。これを説明するわけではありません。目を通していただきたいと思います。以上です。

(佐間田会長) では、事務局、説明をお願いします。

(事務局、増淵課長補佐)

【資料No.1に基づき説明】

(佐間田会長) 事務局の説明が終わりました。今の内容について、委員の皆様よりご質問等ありましたらお願いします。ご発言の際は挙手をしていただき、会議録の作成上、マイクをお使いいただけたらと思います。

(猪瀬委員) この資料は施設長会議のときにも配っていただき、そのとき目にした資料ですが、この資料を見たときに、もう決定したんだな、というのが第一印象でした。今回、私も、どこの場所に移転されるのか見に行きましたが、そのときに、もう決定されているのですが、この場所が本当に線路から近い。子どもは電車が見えるので凄く喜ぶと思いますが、まず、線路がとても近かったです。そして、周辺の道路幅が凄く狭かったので、送り迎えのときなど大丈夫なのか、と心配になりました。あとは、線路に近いところに住んでいたことがあり、線路が近いということで、その振動と音と、それは子ども達にとって影響はどうかと心配に思いました。それと、住宅街に建てられるということで、周辺の住宅の方とのトラブルなど、これから無いのかなと。私の友人も他の市町村で働いているので聞いたところ、やはり移転したときには、騒音問題、都会ではよくありますが、それでトラブルになったという話も聞きました。他園のことですが、とても心配になります。この点は、どのような対処をされ、市でも把握しているのか、心配になっております。その点、教えていただければと思います。

それと、先ほど、新しい園舎が出来るまでは前園舎での保育をするということですが、確か水浸しになってしまい、それが移転の原因になったと言っていたのですが、その点、これからまた梅雨、夏の台風があると思います。それで、その園を使用していて大丈夫なのか、今の話で心配になりました。子ども達の安全が第一だと思いますので、その点も教えていただければと思います。

(事務局、増淵課長補佐)

場所が線路から近いということで、子どもに対する振動や音の影響については、当該地は電車基地があり、電車の出入りが結構あるところです。車両センターに問い合わせたところ、電車の出入りが多いのは、朝早くと夜遅くになり、保育の時間に関しては、たくさん通るということはなく、通るときの速度についても、通常線路を走るスピードよりも低速で走っていますので、音や振動の影響はそれほどないということです。住宅街でもありますが、その問題はないと考えています。また、道路が狭いということについては、感覚的なものもあると思いますが、建物を建てるに当たり基準を満たした道路であり、特に問題はないと考えています。西側の角につきましては、少し通りづらいところがあると思いますが、建てるときに、今より広い幅が確保できるよう設置することになっており、問題ないと思っています。あと、住宅街におけるトラブルについては、私がどうこう言えることではないと思いますが、近隣に対して説明にまわっており、概ね理解を得ていると理解してい

ます。前園舎での保育については、雨の降り方や台風によって、雨漏りや周辺道路の冠水などあるかもしれませんが、気象状況により、安全確保に努めながら現園舎で保育をするということになります。

(大垣委員) 近隣住民の方に聞いたということですが、概ねというのが凄く引っ掛かります。概ねということは、私達にとったらリズムカルな音など最高ですが、騒音を嫌がる方もいる訳です。あれだけ住宅がある中で、後で概ね以外の反対者がいたら、その時はどうするのかと。あと、猪瀬委員と同じように、本当に狭い道路について、何も問題ないと言いましたが、狭い道路で朝の忙しい時間に、すれ違うのも大変な状況の中、何か事故が起きてからでは大変かと思えます。あと、埋設物が出た、内容がコンクリートと生活物ということでしたが、なぜあそこに生活物が埋設されていたのか、その生活物が、これからの子ども達の環境に対して何か大きな影響はないのか、この資料を見た時に、埋設物、そして工事が遅れている、これでこのまま着工して良いのだから、という不安が凄くあります。

(事務局、増渕課長補佐)

概ねと申したのは、近隣の方にあいさつした時に、注文してきた方が1名いたということを知っており、気になって概ねと申し上げました。あと、狭い道路で事故が起きて、という点に関しては、何をもちいて狭いというのか、通常の道路幅は確保されていますので、申し上げられないところです。埋設物について、なぜ生活物があったか、これに関しては前地主も知らなかったと言っており、詳しく、いつ誰が埋めたのか、ということまでは分かっていません。埋設物があった関係で、土壌汚染の検査を2回したところ、汚染物質は検出されなかったということです。埋設されているものを綺麗に取り除き、検査をして問題ないと理解しております。

(佐間田会長) では、私から1点だけ質問があります。この着工が決まったときに、この場所について、私も正直、子ども達の安心安全というところで、少し疑問に思ったところですが、市の方はこの場所を実際に見に行ったのか、その点だけ聞きたくて、お願いします。

(事務局、増渕課長補佐)

場所は相談というか、話があった時から分かっています。

(佐間田会長) それは理論上ではなく、目視されたということですか。

(事務局、増渕課長補佐)

はい。

(佐間田会長) 承知しました。では、あと1名だけ。

(小谷委員) この件に関しまして、いろいろ地域の方から質問を受けます。その時に答える立場として、薬師寺側で答えていかないと納得いかない訳です。そのような場合に、むつみ学園としても理解していないことのほうが大変多かった。質問の一つは、どうしてこの土地なのか、市の土地だからかなど、いろんな憶測があります。どうやってこの土地が決まったのかという質問に対して、まず私が質問に答えられない。また、地域住民の説明会はやったのかと。友人が、こんなの初めてで、いつの間にか工事が始まった、と言って来られた方がいたが、その時に答えられない。それと、この周りにこども園がいくつもあるのに、なぜこの土地を選んだのか、それは下野市として承知したことなのか、など、いろいろな疑問で訪れる方がいらっしゃった時に、やはり薬師寺側の立場でこれを答えるとした時に、答えられない。確認しますよ、などとしているのですが。この会議の意図からすると、みんなにすごくいいことですよ、ぜひ上手くいったらいいよね、というような環境の中で子ども達が通ってくるのが一番だと思います。しかし現状を見た時に、いろんな憶測がある状況で園舎が建っていき、そこに子どもが通ってくるというのは、暗闇の中で進めているような感じがします。やはり目に見えない環境というのはもの凄く大事だと思います。子どもの数が減少していますので、卒園の子ども達は15校に分かれていきます。いろいろ外から子どもさんを送迎に来ていただいている状況ですが、いろんな地区からこういう情報を聞いて質問攻めにあうと答えきれない。なので、もう少し、施設長会議の時に詳細を、なぜこの土地なのかとか、細かく言っていただかないと、薬師寺さんだけの問題ではないので、ぜひそこはお願いしたいと思います。

(事務局、増淵課長補佐)

土地の選定につきまして、元々市の土地ではありません。市の方でこの土地を斡旋したわけでもなく、内木会のほうで選定した土地になります。地域住民への説明につきましては、当初、説明会を開催する予定だったのですが、コロナの影響で1軒1軒まわる方式に変えたということと、回覧板を回したということになっております。施設長会議では、今後、詳細を説明するようにしていきたいと思います。

(原田委員) 質問ということではなく、お願いです。道路ですとか、周りが凄く狭いとお聞きしています。おそらく着工して決まっていることだと思いますが、子ども目線ということで会長さんからお話がありました。とくに駐車場に関しては、着工が延びたということで、これから見直し等が可能であれば、送り迎えで朝などは親も子どもも急いでいて、早く行きなさいということもあり、一番、駐車場の事故の可能性が高く、何台止めるか、となると狭くなってしまうので、台数も貴重だと思いますが、整備が間に合うのであれば、出

来れば1台1台がゆったり止められるだけのスペースを確保していただければ良いかと思えます。

(事務局、増淵課長補佐)

駐車場につきましては、事故など起きないように、一方通行にするなど、考えております。

(佐間田会長) では、他の報告もありますので、次に進めます。

(2) 令和4年度開園予定施設にかかる利用定員につきまして、事務局の説明を求めます。

(事務局、増淵課長補佐)

【資料No.2、資料No.2-2、資料No.2-3に基づき説明】

(佐間田会長) ただ今の説明について、新たに利用定員を定めるにあたり、子ども・子育て会議の意見を聴くとされていますが、令和4年4月開園予定の薬師寺幼稚園の分園の利用定員について意見はありますか。

(小谷委員) 資料2-2ですが、こちらの園での認可定員数が記載されていないので、どのくらいの余剰があるのかが分からない。例えば、むつみこども園では240人ですが、施設自体は300人の対応が出来て、あと60人の余剰があります。そのような数字があったほうが、実際に増やしていったらいいのかなど、そういったところが見えないので、記載をお願い出来ればと思います。

(事務局、増淵課長補佐)

子ども・子育て会議の中では、利用定員について行っておりますので、利用定員の資料にしましたが、今後、認可定員についても付けるようにしたいと思います。

(猪瀬委員) 令和4年度、石橋地区に薬師寺幼稚園の分園を開園されるということで、認可定員30人、利用定員30人ということです。この石橋地区には、他にグリム保育園、野ばら認定こども園がありますが、この30人の利用定員は、それだけのニーズがあったのかを知りたいです。それともう1点。令和4年度の入園児数、各園、4月からの入園児は決まっていますが、全体的な入園児数、下野市ではどのくらいあったのかを教えてください。それともう1点、資料2-2を見せていただき、全体の利用定員数が2,596名、内木会系の人数を計算したら、1,184人でした。約半数近くが同じ系列の内木会の施設に入園が可能という実態を知り、同じ系列のところはそれだけのお子さんが行って問題ないのかという疑問はあります。私個人の意見としては、いろんな考えのある、いろんなことをやっている、いろんな

施設があり、それぞれ子ども達が伸び伸びと育って行って小学校の入学を迎えるというのは、いろんな個性があって、とても大切なことだろうと私は思っています。その点のことを教えていただければと思います。

(事務局、増淵課長補佐)

令和4年4月の薬師寺幼稚園の分園の児童数は10人の予定です。市では潜在的待機児童、低年齢児の不足がありますので、令和4年度中に0歳児1歳児は埋まるのではないかという見込みをしております。令和5年度には定員の30人近くになることを想定しております。令和4年4月1日時点での児童数、各施設の児童数を合計したものにつきましては、2,059人になっております。内木会の系列園が多いということですが、委員がおっしゃるとおり市民の選択肢というのは多いほうが良いと考えております。

(猪瀬委員)

4月から10名でスタートということですが、他の園はその点大丈夫ですか。それと、そのあと、2歳児さん卒園してからバスでの本園への送り迎えという話でしたが、それは2歳児卒園したあと、ということですか。その分、本園さんは数を減らしての入園希望ということですか。

(事務局、増淵課長補佐)

バスでの送り迎えについては、3～5歳児のごきょうだいがいて、薬師寺幼稚園の本園に通いたいという方の場合、分園から本園への送り迎えをするということです。あと、他の園は大丈夫なのかということですが、こちらにつきましては、例年並みの人数になっていると理解しております。

(大垣委員)

前回の会議の時に、薬師寺保育園の認可定員をこの場所で決めるといった話があったと思いますが、そこ、捉え間違っていないでしょうか。そうでしたらやはり認可定員をしっかりとこの会議の中で決めていただきたいと思います。質問はもう一つ。薬師寺保育園の認可定員と利用定員を教えてくださいたいと思います。

(事務局、増淵課長補佐)

認可定員については、この場で決めるということではなく、県のほうで決めることとなりますので、市で決めるとか、子ども・子育て会議で決めることは出来ません。前回申し上げたのは、利用定員を定める時に、子ども・子育て会議の意見を聴く、ということになっており、その意見を聴くというのがありますからお願いします、ということを上げたとと思います。現在の薬師寺保育園の令和4年4月からの認可定員と利用定員につきましては60人になっています。

(大垣委員)

4月からではなく現在、現時点は。また認可定員は。

(事務局、増淵課長補佐)

50人です。認可定員は60人です。

(峯委員) 先ほど聞いた令和4年度の利用者数2,059人、資料右下の合計が2,596人まで定員はとれるということで良いですか。

(事務局、増淵課長補佐)

受入可能ということです。

(峯委員) 内木会のホームページを見たところ、ご存知だと思いますが、令和4年度より保育園連携型認定こども園に移行し、定員を110人に変更します、と載っています。今50人で60人になり、今度110人ということを謳っています。2,059人しか利用がなく、今現在で2,596人、500人ほど施設は利用できるのに、110人というのは、勝手に出しているものなのか、ということを確認したいと思います。

(事務局、増淵課長補佐)

ホームページについては確認していませんが、現在整備している薬師寺保育園が110人の規模で整備していますので、そういうことで載せているのではないかと推測されますが、その辺は分かりません。

(峯委員) 確認してください。

(佐間田会長) 確認をお願いします。他の報告もございますので、次に進めます。他にございましたら、最後に事務局にお伝えいただけたらと思います。
では(3)放課後学童ハローキッズの整備について、事務局の説明を求めます。

(事務局、大口課長補佐)

【資料No.3に基づき説明】

(佐間田会長) ただ今の説明について、委員の皆様よりご質問などありますか。

(小谷委員) 整備費の補助金というのはどれくらいの率で出るのですか。

(事務局、大口課長補佐)

整備にかかる費用のうち、1支援単位、施設につきまして、国の基準があります。全体の整備費が国の基準を超過した分は法人負担となり、残った基準の範囲内の額について、3分の1が法人負担、残りの3分の2を国、県、市

で分けまして9分の2ずつの負担となります。

(小谷委員) ありがとうございます。

(猪瀬委員) 第2期子育て応援しもつけっ子プランの19ページに学童保育のページがあり、学童保育はどういうところでやっているのか、ということを見てみました。このページに載っているのは、民間ではなく公立でやっている学童保育という理解でよろしいですか。

(事務局、大口課長補佐)

計画を策定している段階で、市のほうに届け出のあった学童保育となっており、この時点では公立しかなかったものであります。

(猪瀬委員) そのあと何か所で民間はやっているのですか。

(事務局、大口課長補佐)

令和2年度から、薬師寺幼稚園で3部屋、第二薬師寺幼稚園で3部屋、むつみこども園で2部屋、合計8支援単位と言いますが、そういう形でやっています。来年度からハローキッズも増えるという形になります。

(猪瀬委員) 学童の希望も多いと聞きますが、どのくらい増加傾向にありますか。

(事務局、大口課長補佐)

利用人数ですが、4月1日の入所予定者が全体で764人、これは公立だけになります。具体的な数字はありませんが、昨年よりは4月1日時点で減っている形です。これには、コロナの影響で自粛されている方も中にはいるのかな、というところでは見ております。なので、ある程度終息した時に、一旦退所している方も、終息してくると、また入所希望という形で増えてくることは想定されています。

(佐間田委員) 他の報告がありますので、次に進めます。

続きまして(4)子ども家庭総合支援拠点の設置につきまして、事務局の説明を求めます。

(事務局、伊澤主幹)

【資料No.4、資料4-2に基づき説明】

(佐間田会長) ただ今の説明について、質問などはありますか。

(大垣委員) こういった支援の拠点が出来るということは、本当に嬉しく思います。今、

要支援児童や要保護児童など、いろんなことで抱えているお子さんや保護者の方、たくさんいると思いますが、現時点で下野市においてどのくらいの方に支援をされているのか、分かる範囲で教えていただけたらと思います。

(事務局、伊澤主幹)

人数、ご家庭ということになるかと思いますが、大まかなイメージで言いますと、ご家庭で100世帯程度、その家庭にはごきょうだいがいらっしゃると思いますので、プラス20人、120人程度ということになります。これは、市で関わっている件数で、虐待リスクが高く、児童相談所で関わっている案件もあり、大まかにプラス10人程度ございます。市全体で言いますと、130人程度ということになるかと思いますが。

4. その他

(佐間田会長) 続きまして、4. その他に移ります。事務局からお願いします。

(事務局、大口課長補佐)

前回の会議の際にご報告した南河内小中学校の学童保育室が、2月いっぱいまで竣工し、4月1日から共用開始ということで準備を進めているところでございます。電話の工事など、まだ細かなことや引っ越し作業などがございまして、今後はそういったところを予定しております。前回触れたところで、完了しましたということの報告でございます。

(事務局、増淵課長補佐)

吉田保育園の民営化に伴う関係ですが、下野市立吉田保育園につきましては、令和5年4月1日に民営化の予定になっています。それに向けて民営化運営法人の募集を令和3年12月14日から令和4年1月13日まで行いました。その結果、市内1法人から応募がありました。今後は移管先法人の選定を適正に行うため、薬師寺保育園民営化選定委員会を3月22日に開催し、決めていくこととなります。吉田保育園の選定委員会ですね、これを3月22日に開催して決めていくこととなります。

(佐間田会長) 他にありますか。よろしいですか。

では、なかなかこのような機会ありませんので、委員の皆様から、情報交換などありましたら挙手をお願いします。

(小谷委員) 公立の民営化についてですが、民営化をする一つの理由として財政難であるということをお聞きしました。それで、実際に財政難であれば、そこに通われているお子さんには大変申し訳ないでしょうけれども、統合か閉園というのが本来の流れではないかなと思います。そこを、実際に減少している中、民営化で手を挙げるところが、同じ法人が2つとっていくという現状を見た

時に、閉園とか、統合するという考えが市としては無いのか、ということと、定員が減っている園に対して民営化ということで私立に手渡した時に、今回のようなことが起きてくる。結局なかなか理解がない中で進めていくことがあります、その中でまた吉田保育園を民営化していくことに、少し何となく納得がいかないと言いますか、一時、薬師寺関係が収まってから、また次をするなど、そんなにひっ迫した状況ではないように思いますが、それでも進めていくということになりますか。

(事務局、増淵課長補佐)

財政改革的な面があるということですが、公立園の場合、どこも施設の老朽化が進んでいるところであります。公立であった場合、施設の建て替えや新築するときに、補助が出ないというものがあまして、あと、いろんな政策、補助金に関しても公立は出ないことが多くあります。そのような状況の中で、公立の保育園の修繕などが後回しになっているのが現状です。公立のほうも、もっと充実させたいところがありますが、なかなか財政が厳しく、そちらまで予算が回らないという現状であります。閉園とか統合ということに関しましては、現時点では、保育ニーズがまだ増えている状況です。子どもはこれから減っていくかもしれませんが、今の時点で閉園とか統合というのは、なかなか考えにくいのかな、と思っています。

(小谷委員) そうすると、自ずと財力のあるところに偏りは出てくるのかなと、今の説明を聞き、良く分かりました。公立であったら補助が出ないと、それでは老朽化したところは大変かなと思います。ただ、それを民営化した中で、建て替えとか、移転までしていく訳ですから、財力がないと手を挙げられないという現実がありますので、不均衡が起きるのは当然かなと思います。なので、その辺も配慮していただきながら、ニーズも含めて平等になるようなことをぜひお願いしたいと思います。

(事務局、増淵課長補佐)

いろいろな面から考えながら進めていきたいと思えます。

(佐間田会長) 他にご意見のある方、いらっしゃいますか。

(猪瀬委員) 会の初めに会長さんから、子育ての環境は揃っている、ただ、子どもの代弁を出来る気持ちで参加してくださいということで、凄く心を打たれました。というのは、下野市の政策で保護者の方の第一希望が通るような保育施設を整えていきたいということで、保育施設は本当に整っているな、と凄く思います。ただ、子どもが置き去りにされているような気持ちは正直持っているところがあります。みんな笑顔で地域の宝を育てるためにという素敵な題目があって、子ども主体の保育をしていきたいと思っていますところなんです。今年

度、コロナ禍ということで、5歳児健診が公には行われませんでした。この5歳児健診というのは、就学前1年間に当たり、保健師さんやこぼと園の先生などに来ていただき、いろいろ観察していただいて、細かく、その子ひとりひとりのこれからの課題を教えていただくことが出来て、保育士にとっても有益でした。5歳児健診というのは引き続きやっていっていただきたいことでもありますし、5歳児健診でグレーゾーンのお子さんが40年前よりも随分多くなったように感じます。そのお子さんの様子をお母さま方に伝える大変さ、また、それをこぼと園などに繋げていく大変さというのは、どの施設の先生方も抱えている悩みだと思います。それを何とかスムーズにやっていけるよう、市でアドバイスをしていただけましたら、凄く有り難いと、私は願っています。何かそのような施策などがありましたら、ぜひこれから考えていただきたいと思います。あと、ヤングケアラーが問題になっており、とても気になっているところですので、その点もよろしく願い出来たらと思っております。要望です。

(佐間田会長) このまま受け止めさせていただきます。他にございますか。

(峯委員) 今回、こういった形で、私が言いたかったのは簡単に、子ども・子育て会議というものがあるので、きちんと事前に、みんなに説明して進んで行きたい、と私は本当に思います。コロナ禍でどうしても出来なかったというのは分かりますけれど、書面1枚とか、電話で聞き取りすることも出来たと思います。そういったことをしていれば、結局このような大きな問題となって、話終わりますよ。でも進んでしまっているからしょうがないですけれども、知っていれば、事前に対応できたので。すみません、ここの責任者、福田部長ですよね。私は部長にお伝えしているつもりですので、よろしく願います。要望です。子育て会議を大切にしていきたいと思います。

(佐間田会長) こちらもご意見として頂戴します。他にございますか。では、大塚委員、一言お願いします。

(大塚委員) この会議に参加させていただき、様々な思いで保育に取り組んでいるという現状を痛感しております。現場にいる私としては、子どもひとりひとりというところが一番大事だと思いますが、各園の特色もあるかと思えます。それは園で打ち出すことであり、園は子ども達が選べない、保護者目線で選んでいくものだと思います。どんな特色で保育をしたとしても、子ども達ひとりひとりの環境整備というところが一番であります。今、子ども達のストレスというものが凄く多いなというのを、保育をされていて感じています。各園の保育内容ではなく、社会情勢、保護者様のお仕事の環境もあるのでしょうか。ですので、学童保育も保育園も含めて、子ども達が少しでもリラックス出来るような環境を整えることが、私達現場の役割ではないかと思えます。困り

感の強いお子様が増えているのも確かなことでありますので、そこを解消していくには、専門職を一人でも多く確保していただき、関係機関との連携をスムーズに出来る体制が重要ではないかなと思います。保育園の認可定員云々ではなくて、子ども達がどこの場所で安心して過ごせるか、その環境整備というところを各園で取り組んでいくことが大事ではないかなと、私自身は思っております。

(佐間田会長) では、私から2点。1点目は、薬師寺保育園について、大変市民の方から質問を受けました。小谷委員がおっしゃったように、その質問に答えなければいけないのは現場の私達なので、現場の私達が納得出来るような資料を揃えていただきたいと思います。それに基づいて市民の方にお答え出来るように。そしてまた私達の意見は、本当に市民ひとりひとりからの代弁だと思って受け止めていただきたいと思います。利用定員について、子ども・子育て会議に意見を聴くとされていますが、聴くというのは本当に聴くだけ、という、反映されなかったら意味ないですね、という、結果ありきみたいな会議では意味がないのではないかと、思っているのです、十分な資料を揃えた上で決める機会があれば、その前にぜひ会議を開いて頂けると有り難いと思います。2点目は、今年度、教育委員で学校訪問などをさせていただきました。コロナ禍で、かなり皆さん縮小され、保育園さんもそうだと思いますが、自粛された経験をされていました。同じ市内の中でも、感染対策を取りながら、本当に大きい学校や、住宅地区とか、医療従事者のいる関係者のところとか、本当に自粛された感じですが、ちょっと離れた吉田地区のほうは、感染対策を取りながら今までと同じような体験学習を全てされていて。でも子ども達の体験というのは本当に今後に影響があると思うので、同じ市内なのに、こんなに違う、この子達は、今出来ないじゃなく、この子達の10年後に、この体験がどんなに反映されてしまうのだろうと思った時に、出来ることは体験させてあげたいなと思いました。保育の現場の皆さん、とても大変だと思いますが、子ども達の未来を考えて、出来るところは体験させてあげていただきたいと思います。

(大垣委員) 最近、何人かの方に言われましたが、なぜ民間委託が同じところばかりなんですか、ということと、石橋にまた出来るということで、なぜそこはそういう状況になるのか、そこが不思議だということが、市民の方からも声が聞こえていますので、そこを行政として、頭に入れていただきたいと思います。

(佐間田会長) クリーンに、見通し良くということですよ。お願いできればと思います。では、事務局お願いします。

(事務局、福田部長)

一言お話しさせていただきたいと思います。まず冒頭に、会議の資料の送付

の件でお話しいただきました。本来であれば、1週間から2週間前にはお届け出来るのが理想だというのは重々承知しているところですが、今回、遅くなってしまったこと、まずお詫び申し上げたいと思います。今後は、なるべく早い段階で送付出来るように準備させていただきたいと思います。また、本日も民営化の話を含めて貴重なご意見等をいただきました。下野市といたしましても、子ども達の教育、保育、こういった環境を更に、より良くしていくために、今後とも取り組んでまいりたいと考えております。皆様方からも様々なご意見等をいただきながら、進めてまいりたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

(佐間田会長) 委員の皆様には活発なご意見をいただき、ありがとうございました。以上で進行を事務局に戻します。

5. 閉 会

(事務局、金田課長)

以上をもちまして、令和3年度第2回下野市子ども・子育て会議を終了いたします。長時間にわたり、ありがとうございました。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためここに署名する。

会 長.....